

平成 23 年度第 2 回鳥取市政懇話会

日 時 平成 24 年 2 月 13 日 (月)

午後 3 時～5 時

場 所 鳥取市役所本庁舎 4 階第 2 会議室

出席者 清水昭允会長、山口朝子副会長、安養寺幸男委員、稲垣晴雲委員、今川登委員、下石義忠委員、川上一郎委員、神部みゆき委員、ケイツ佳寿子委員、田中仁成委員、谷口博繁委員、塚田武志委員、中西重康委員、西山徳枝委員、山根康徳委員、吉儀圭介委員、吉村あけみ委員 (3 名欠席)

○司会 お待たせいたしました。予定の時間になりましたので、ただいまから第 2 回鳥取市政懇話会を開会いたします。

まず、開会に当たりまして、竹内功鳥取市長がごあいさつ申し上げます。

○竹内市長 平成 23 年度の第 2 回目の鳥取市政懇話会をこうして開かせていただいております。第 1 回目が新庁舎の整備の計画などを中心に御議論をいただきまして、本日は、現在の本庁舎、第 2 庁舎が移転した場合は、敷地をどのように活用するかを含めて中心市街地の活性化の基本方針案、鳥取駅周辺の再生計画の案について御説明をさせていただき、御議論をいただきたいと思っております。

私は常日ごろ、鳥取市役所の庁舎の新築移転と、現在の庁舎の敷地及びその周辺の活性化の検討と、それから駅周辺の整備の検討を 3 点セットと呼んでいるのですが、この 3 点セットについて、ほぼその全体の輪郭が見えてきているという状況になっております。今後、庁舎についていろんな御意見、御議論もまだ市民の皆さんの間に出てくると思っておりますが、いずれにしてもこうした鳥取市にとって重要な事業について、その全体像を十分に御説明しながら、市民の皆さんの御理解、御判断をいただきたいと思っております。どうぞございまして、市政懇話会に御出席の委員の皆様方にもぜひ積極的な御意見、また、鳥取市に対する御指導をいただきますようお願いをしたいと思います。

○司会 ありがとうございます。

続きまして、清水会長様よりごあいさつをいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○清水会長 皆さん、こんにちは。立春が過ぎたにもかかわらずまだ寒さが残り、今日のみぞれまじりの雨ですが、17 名の方に出席していただいて、第 2 回の懇話会がこうしてできることをお礼申し上げます。

私たちがこういう議論のときに絶えず頭に浮かべるのが、将来どうなるか、10 年後、20 年後、子どもが大きくなるころにはどうなるか。生活がどうなっているか、商業施設はどうしたら便利になるか、鳥取周辺の観光地がどうなるか、インフラ整備はどうか、そういったことを思い浮かべながら鳥取市の全体像、東部圏域の全体像を描きます。

これからどんどん道路がよくなってきます。先日も鳥取但馬会に出てきたのですが、

但馬と鳥取と道路が今どんどんつながっており、多分あと10年ぐらいで但馬とも接続する。出雲までバイパスがつながっていますが、出雲から浜田までもあと10何年したら大体つながる。山陰道も鳥取豊岡宮津自動車道もつながってくるということになると、京都や敦賀の方への時間距離がすごく短くなる。そうしたらこの鳥取の立地条件は非常によくなっていく。もっと人が出入りして、駅周辺がにぎやかになったときに、都市のインフラ整備というものをどうやっていくか。

それぞれみんなが得意分野を持っておられます。きょうはいろいろなテーマで、生活面、観光面、交流面、福祉、安全、それから公共交通など、皆さんの方から御意見を出していただきながら、この町がにぎわいをもたらして、市民が豊かな生活を送るために、孫の代まで充実した生活を送れるような都市整備ができるよう、いろいろな角度から皆さんの御意見をいただきながら進めたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○**司会** では、議事に入ります。鳥取市政懇話会条例第2条第2項の規定により、議事進行は会長に務めていただくこととなっております。これ以降は清水会長をお願いしたいと思います。

○**清水会長** では、協議に入らせていただきます。

中心市街地整備課説明ということで、2項目ありますので、それぞれ事務局の方から説明させていただきたいと思ひます。

○**中島中心市街地整備課長** 中心市街地整備課長の中島でございます。

まず、現本庁舎周辺地区の活性化・跡地活用に関する基本方針案（中間報告）について御説明申し上げたいと思ひます。

この中間報告は、昨年11月17日に第11回の委員会を開催して取りまとめたものです。11月18日に記者会見で公表して以降、今までに委員会は15回開催し、2月16日の予定の第16回の委員会で最終報告をまとめることになっております。

この中間報告は、昨年3月に策定した鳥取市の新庁舎建設に関する基本方針に基づいて現本庁舎が移転したと仮定した場合に、この周辺地域の活性化方策、跡地の活用について、20年後を見据えたこの地域の姿を提案していただくということで、地域の現状や課題を整理し、客観的な立場から検討し、まとめていただいております。

まず、この周辺は、二核二軸の一つの核になり、この周辺の地区の特性である歴史、文化、自然、居住、防災の観点から20年後の姿を検討していただいております。

区域の定義ですが、この区域につきましては、中心市街地活性化基本計画を定めた210ヘクタールの区域のうち、網かけのところ（資料参照）としております。

この地域の課題ですが、大きく5つあります。

1つ目が、高齢化、居住人口の減少。居住人口は、平成10年に比較して平成23年3月時点で13%減少。高齢化率は32.5%と、市の平均の22.9%を大きく上回っております。

2番目に、小学校児童の減少。この周辺の3校の小学校の児童数は、平成10年に比べて約30%の減少という状況です。

3番目に、空き地、空き家の増加。平成15年に比べて平成19年の中心市街地の全体の

空き地あるいは駐車場などの低未利用地の面積は 15%も増加しています。特にこの周辺は、平成 21 年の低未利用地が約 9.2 ヘクタールあり、空き地や月極駐車場が増加しています。

4 番目に、商店街の減少。平成 10 年と比べて平成 19 年の事業所数は 34%も減少、販売額は 42%も減少しています。

5 番目に、来街者の回遊性の低さ。この周辺には県民文化会館やわらべ館などの公共公益施設があり、多くの方が利用されますが、その周辺の施設や商店をあわせて利用することが少なく、地域のにぎわいの醸成につながっていない、いわゆる回遊性の低さがあります。

これらの諸課題を踏まえて、20 年後の将来に向けて方向性を 2 つ示していただきました。1 つ目が、多様な世代が住む、豊かな街なか生活の舞台にしようということ。多様な世代が自動車に頼ることなく、安全・安心で快適に住み続けることのできる環境づくりに重点を置こうという方向性を出しています。2 つ目に、多様な歴史、文化、景観等の資源を有する、交流の舞台にしていくという提言をいただいています。この周辺は城跡、歴史、文化、久松山を背景にした良好な景観があります。こういったものを生かして、人が集まって交流する環境づくりに重点を置くべきという方向性を出しています。

本地域に求められる施策・取り組みの例として、6 つ示しています。1 番目が良好な住環境の拡充。2 番目に安全・安心な歩行環境の拡充。3 番目に良好な景観の形成。4 番目に安全・安心なまちづくりの拡充。5 番目に公共交通の拡充。6 番目に交流機能の拡充ということが出ております。

こういった地域の目指す方向性、求められる施策を踏まえて、現庁舎が移転した場合にどういった機能が要るかということ为例示しています。

1 番目に住民の日常生活を支える機能として、住宅機能、福祉機能、商業機能、健康増進機能、地域の安全・安心機能。

2 番目に、住民や来街者の憩いの場、交流の機能という視点で、市民活動支援機能、観光交流機能、公園機能。

現段階では、委員会の中でこういった機能を具体的に配置しながら議論しています。最終回の 2 月 16 日の委員会の中でそれを決めてまいります。

次は、駅周辺再生基本計画の素案です。先回の市政懇話会ではこの計画案の前段の構想を説明させていただきました。その構想をもとに作った計画を説明します。

まず、なぜこの駅周辺の再生が必要なのかということを御説明します。

社会的な背景として、全国的に人口減少や超高齢化社会への対応、現状として駅周辺の歩行者の通行量が減少や人口減少、あるいは JR、バスの利用者の減少。空き店舗の増加と商業活力の衰退。地価の下落など。一方で、そうはいつでも商業など様々な機能がここに集中しており、JR やバスターミナルがあって交通の要所であるという優位性が他の地域と違います。

そういった中、高速道路網が整備されて、今後商圏域が拡大していくということ、こ

の駅周辺の動きの中で、JR の耐震化、シャミネの改装、大丸も太平線再生プロジェクトにあわせてリニューアルするなどのポテンシャルがあるということを踏まえ、今再生しないと駅の魅力は取り戻すことができないということで、構想にまとめたところです。構想の基本理念は「人が集い 交流し 魅力あふれる街『鳥取OACIS (オアシス)』の創造」ということで、鳥取砂丘をイメージした造語です。

将来像として、基本理念に基づく 4 つのテーマを設けています。①多機能を高度に集積した広域商圈対応型拠点の形成、②回遊性と滞留性を持たせた人が行き交う交通結節点の形成、③低炭素社会の実現に向けた都市環境の形成、④便利で安心、住み続けたいと思える快適生活空間の形成。

その将来像のイメージがその下にあります、小さくて恐縮ですが、図面で示しておるところでございます。真ん中の点々の赤いのが駅でございまして、駅の南北に歩行者通路を整備して回遊性を持たせていこうということで、それと駅の南側に公共駐車場であるとか駐輪場を整備していこうということ、あるいは駅の北側の方に、これは先導プロジェクトとして太平線再生プロジェクトを行っていく、それにあわせて民間の方の大丸さんがリニューアルしていくこと、あるいは駅舎、シャミネが改装をしていくと、こういった将来像のイメージがございます。

基本計画は、今後 5 年間のものを具体的に整備していこうということをつくっております。整備方針は 3 つ、公共駐車場・駐輪場を整備していく、駅南側の歩行者動線を確保していく、駅北側の歩行者動線の拡充をしていくということでございます。

行政の関連事業として、駅の北側の方に太平線再生プロジェクトとして、太平線のアーケードを撤去して、4 車線を 2 車線にし、大丸前に芝生を植えて、その上に大屋根を設置していく工事をこの駅周辺の再生の先導事業としてやっています。

今後の進め方として、公共駐車場・駐輪場につきましては、23～24 年度で関係者と協議、25 年度に工事、駅の南側の歩行者動線の整備についても 25 年度ぐらいいままでに関係者との協議、設計を終えて、26 年度より工事。できれば 27 年度には民間の方でにぎわいの創出のための空間づくりをしていただきたいと思いますと考えています。駅の北側の歩行者動線の整備につきましては、工事を未定としていますが、太平線再生プロジェクトの整備が完了する 25 年 2 月以降、交通上の支障について検証し、それを踏まえながら関係機関と協議しながら検討していきたいと考えているところです。

以上で、説明を終えさせていただきます。

○清水会長 市から説明がありました。これから皆さんの方の御意見をお願いします。

○委員 駅の北側にケヤキ広場がございますね。私は仕事柄、京阪神とか東京のいろいろな人たちとの交友の中で、鳥取の駅前に観光バスが 1 台も 2 台も入れない、せめて 4、5 台ぐらい観光バスがとまれれば、そこから 1、2 時間、自転車でも借りて荒木又右衛門の方とか、いろいろ市内を回遊できるのにと意見を聞きます。砂丘に行ったらすぐ動く、温泉に行ったらすぐ帰るといってではなくて、市内の活性化になるという話を随分聞いていたものですから、前の市政懇話会で提案したことがあります。

県有地の立派なケヤキ広場は、植えられた最初からいつも見ているので愛着があるのですが、しかし、プラス・マイナスにすればどっちかなと思います。やはり鳥取市のためには観光バスをとめるところは必要と思います。

○委員 現庁舎の周辺の活性化についての話を聞かせていただきました。私は業務で日々、子育て世代や若い世代と接する機会が多いのですが、現庁舎の跡地より、まず新庁舎を建てるかどうかということについて本当に無関心な層です。どこに市役所があっても私たちの生活は変わらないと思っています。

そうした人に向けて、ぜひ現庁舎や空いた施設が魅力的な建物へと生まれ変わるということを含めて提案していただければ、自分のことだなということがわかると思います。今日の説明では、確かにいろいろなジャンルの多彩な取り組み例が書かれていますが、余りにも多彩過ぎて、広く浅くという形なので、ぴたっと来るものがなく余り魅力的な感じには思えませんでした。

厚生労働省の調査では、0～3歳の子どもは8割方家庭で見ていると言われています。ところが、この不況下では、この8割の家庭で見ていた世代の子どもたちを、どうしても保育園に預ける必要がある。ですから小学校でだんだん人数が減ってくるのとは裏腹に、小さな世代こそまちなかで子どもを預けたいという層が増えてくると思うのです。そうなったときに、この中心の本当に静かなこの地域に子どもを預ける場所、将来的には中高生の自習室的な場所というような、子育て世代にも訴えかけるような場所を整備してほしいと思います。あと、若者の交流、居場所がないと言われていますが、そういう場所も具体的に市民の方に訴える形にすることによって、新庁舎の建設というのが実現していくのではないかと思います。

○委員 現庁舎の周辺地域を一括して地図を見ますと、袋川を境に住民の意識は全然違っていると思います。向こうは商業圏的なもの、こちらの方は静かな城下町の中の住宅街という形で、全然意識が違うのでは。確かにふだん生活に使っているようなお店がこの周辺に本当になくなりました。そういう点では、買い物関係が本当に大事ではないかなとは思っています。

また、これからの人材を育てる青少年の宿泊的なもの、宿泊を通して県外の方たちとの交流やさまざまな研修できるようなそういう場がないのかなと。

もう一つ言わせていただくと、別に何も建物を建てなくても、公共の土地であれば空間の地域というのはこれからいろんな形で活用できると思いますので、そんなに急いでする必要はないのでは。壊すのにもお金が4億3千万円ぐらい要りますよね。

○委員 これから人口が減ってくる中で、わざわざ住宅機能がこの地区に要るのだろうか。総花的に書いてありますけれども、やっぱり重点化して取り組んでもいいのではないかなと思います。例えば、市民会館がありますが駐車場が少ない。そういう中で、市民会館とプラスして利用価値が増えるような施設をまず持つてくるとか、この地域全体にないようなもの、そういうものを優先して置けばいいのではないかなと思います。

○委員 考えられる機能をみんな載せたとしか見えないのですよ。空間の地域があっても

いいのではないか。公園化してもいいのではないか。駅周辺もそうですが、全部やったら、本当に 100 億で済むのかと聞きたいです。

3 週間ほど入院していましたが、その間に 5 回ぐらい緊急のヘリコプターが来ました。では日赤はそれができるのですか。できなかつたら、医療の最高技術ができる日赤であり続けられるのですか。

駅南口にマイクロバスでお客さんを迎えに行くと、非常に違和感があります。これはだれのロータリーの駐車場なのだろうか。くる梨バスも全然スムーズに走らない。バスがとまれないのです。ローソンの前からぐるっと回ってフコク生命の前まで来るのに結構気を使います。あんな見通しの悪い木を植えてであると非常に迷惑。5 人も 10 人もタクシーに乗らないのに、前も後ろもタクシーだらけです。あんな観光地の格好はどここの駅に行ってもないような気がします。鳥取市はこういう特徴を出そうではないかという検討委員会があつていいと思うのです。

○委員 市庁舎を移転した場合の跡地機能ということで、まず最優先でお願いしたいのは、東町の消防署の移転です。あそこは非常に狭い土地ですし、高齢化が進んでいます。市街地の消防を考える会で話す機会がありまして、新庁舎をつくった場合には、跡地に最優先して消防署をつくっていただきたいという結論になりました。こういうものをつくるということにすれば、ある程度反対しておられる人も、賛成しようということにもなってくるでしょう。

○清水会長 では市の方から、今までの問いかけについて説明をお願いします。

○竹内市長 観光バスの件ですが、従来、観光バスにはやはり大きな課題があつたと思います。これまでは市立病院跡地にとめていたわけですが、そこは市庁舎の候補地になっておりますので、駅周辺のどこに持っていくか。駅近辺に未利用地もまだあるので、適当な場所を検討する必要があるという認識を持っております。

子育てに適した施設、青少年の宿泊機能を持った交流施設というのはこれまでの議論の中では余り出ていません。今いただいた御意見も今度の検討委員会に市政懇話会からの意見としても伝えていきたいと思ひます。すでに子育ての機能などは中心市街地の空き店舗活用でも行われておりますし、青少年の宿泊機能を備えた交流施設などは、自然の空間の中、あるいはスポーツ施設があるようなところで検討できる機能だとも感じております。

建て込まないで空間をあけてという御意見も多くあつたわけですが、この中間報告から最終的なまとめにするときはもっと絞らなければいけないという議論は、やはり委員会の中からも出ています。

駅の北口も特徴を出すべくしっかり方向づけをすること、駅の南口のロータリーについての御意見、そういったことも考えていきたいと思ひます。

東町の消防署の件は、委員会の方でも非常に重要な施設の候補であるという認識を持っているということですし、消防局もぜひ救急車を備えた出張所が袋川の内側に必要だという意見ですので、引き続き検討していきたいと思ひています。

○清水会長 では後半にいきたいと思います。

○委員 これをすべて一気にやろうというわけでは多分なかろうと思いますので、鳥取のこのエリアの個性を生かして、優先順位をつけて取り組んでいただければと思っています。

気になったのでは、官と民との役割をもっと明確にした方がいいのかなというところがあります。戸建て住宅の整備、商店街の活性化など、商店主や地主さんの意見を十分踏まえないと机上の空論になってしまいます。

また、これから20～30年という時代のスパンで考えたときに、今の感覚で本当にいいのかどうか。このエリアの中の親の世代がないわけですから当然子どもが増えるわけではないので、遷喬小学校と久松と醇風、この3つの小学校が存続することすら危ぶまれるような状況も現実問題あるわけです。

ただ、私たち鳥取市民にとっては、この久松山のふもとエリアというのはやっぱり本当にふるさとであり、一つの心のよりどころとなるような場所ですので、歴史と文化と景観を有する交流の舞台ということで、住んでいらっしゃる人だけではなくて、観光客も、それから私のようなこのエリアの外に住んでいるような人たちも交流できるエリアにという思いが強いです。

もう一つ言うと、言葉が非常に抽象的なので、もっと具体的に示してほしい。これはだれが運営を担うのか、だれが行動し、実現していくのか、その主体が見えなかったのです。例えば鳥取大学とか鳥取環境大学の学生の五臓圓ビルあたりでの交流、鹿野街道ではサンバチームを呼んでいろんな活動をしたりしています。そういう実績もあるわけですので、若い方々がこの地域に入り込めるような工夫、そういった方々が活動の主役となるような仕掛けづくり、これは余りそんなにお金がかかることではなかろうかと思っていますので、そういうソフト面の対応を、これはどう担い手を探すかということになるかと思いますが、そのことも考えていただければと思います。

○委員 現段階は素案、中間報告で、これから最終案の事業計画に向かっていくわけでしょうけれども、市民が一丸となって向かっていく政策、運動の指針をつくっていかないと、また鳥取市はハード面を重要視しているのではないかというような誤解、認識のずれが生じてしまうのではないかと心配しています。

そして、地域経済の活性化という部分をやはり具体的に出していかないといけないのかなと思うわけであります。竹内市長のマニフェストで「鳥取力を高めます」とうたわれている中の例えば雇用対策、若者移住、人づくりといったものとの連動性をつくっていかないと、市民一丸となつての向かっていく方向性というのが見えないのではないのかなと思います。2010年に再選されて2年目の折り返し地点が来たわけで、今一度現在のマニフェストの検証、評価を行い、新たな改善策、具体的な案を取り入れて、今回の中心市街地の問題に特化すればおもしろくなると思います。

1点気になるのが、太平線の再生プロジェクトです。駅周辺再生の中心となるものかなと思うのですが、あえて道路1車線壊して芝生を入れられる。県道鳥取福部線が非常に

大渋滞する中で、どういう立証のもとで計画しているのか。そういった疑問点を説明でき、皆さんが納得するような取り組みも同時に進めていかれば良いと思います。

○委員 今、駅北のにぎわい拠点をにぎわすとして、果たして湖山の方に勝てるのかなど。やはり友達とは、駅よりもやはり湖山の方が店関係が充実していますから、あっちへどうしても行ってしまいます。湖山との違いをどう見出せるかというところが僕はすごく重要かなと思います。湖山の方とはまた違った特徴を持った商店街というか店をつくれれば、鳥取駅周辺にももっと人が集まるのではないかと思います。

○委員 私が一番気になったことは、南側には一応駐車場のスペースがとってあるのですが、やはり北側、久松山までの中間部分に駐車場の案が全然ないということです。観光客にしても、在住の人にしても、ここに集客するにはやはり駐車場がないというのが現状では一番マイナスになっていると思います。市民会館、病院、福祉文化会館、どこに行くにしても駐車場不足というのがここに来ない一番大きな理由です。

皆さんに聞くと、駅前通りを歩かない、買い物に来ない、のぞかないというのも、駐車場がないのが大きな理由になっています。この跡地に何か物を建てるのではなく、現存のいろんな公共施設、病院を生かす空間、駐車場、公園、そういうものを最優先した方がよいのではないかと思います。

駅前通りというのはやはり最優先して考えた方がよいと思うので、真正面に久松山があって、いろんな観光スポットがあるということですから、それを回遊できるような、車、バス、自転車、そういう回遊性と車の駐車場を確保すれば、もっと現存の建物を含めて利用価値が上がるのではないかなと思います。

○委員 自分の立場を考えると、大学関係の仕事をしている立場、国際交流の立場と、それから主婦の3つの立場があるのですが、どの立場の人も余りこっちに来ないような気がします。鳥取市内には年に2回ぐらいとか、本当に行かない。別に行く必要がないのと、主婦は本当に駐車場にこだわります。そこで600円も800円も取られるのだったら行きたくても行かない。そういう人は皆さんが考えていらっしゃるより多いと思います。

休みの日にジャスコなどに行くと、鳥取はこししか行くところがないのかと思うぐらい物すごい人です。そこに行く人たちをこっちに呼んでこようというつもりだとすれば、人から批判されるのを恐れた、だれにも文句を言われぬプランにしか見えません。何が本当に必要なかは市の方々が御存じだと思います。「これがあるからここに来る」というぐらいの覚悟を持って決めていただいた方が、結局はいいのではないかと思います。

○委員 この近辺というのは県文があり、市民会館があり、向こうにはわらべ館がありという、やっぱりそういうほっとするゾーンをつくってほしいなという気がいたします。ある町へ行ったら、そこへ行けば何かあるなど、暇だからちょっと行ってみようか、そこで一日過ごせる、楽しめる、落ちつけるところ、心ときめくところ、そういうところがあつたらいいなと思います。

それからもう一つ、何で北ジャスの方にみんな行ってしまおうか、やっぱりテーマがないのかなど。鳥取駅をおりて若桜街道を歩くとちょっと雰囲気がいい、そういうものが

やっぱりないのかなと。今はもう若桜街道が飲み屋街になって、ちょっと残念だなと思っています。それよりはまだ智頭街道の方がちょっと動き出して、ちょっと特徴のあるものになっているのかなという気が私はしております。

○委員 鳥取市の市街地は観光地的には空洞化になっています。わざわざ市内まで観光客の方がいらっしゃってあちこち見るというのは、ほかの地区に比べてかなり少ない。市内にそんなに魅力的な場所が少ないんです。ただ、例えば国際交流の方でタクシーを1,000円というのは非常に実績が出ています。国内の方も、こうやって道路網が整備されてきたら、鳥取市内自体は行ったことがほとんどない方ですから、そういう方も増えてくるでしょう。それに向けて、駅南に貸し切りバスが来ますが、乗用車が邪魔してなかなかとめられないという問題があるので、この辺のすみ分けを考えていかなければなりません。

ここの跡地問題ですが、鳥取市内は屋外のステージがほとんどないのです。駅前に風紋広場があって、あそこで少しやっているぐらい。そういった機能を持った公園的なものをつくっていかれるというのは、将来の住民のためにもなると考えております。

もう一つ、列車を降りて駅を出た瞬間、駅前の若桜街道の通りがよその都市に比べたら何となく貧相に感じます。手前の方は2車線ありますが、本通り商店街から先がもう1車線になってきます。将来的に、来られた方が立派な都市だなという具合に見せる部分も必要になってくると思います。

○委員 2つのエリアの方向の中間報告があったわけですが、市庁舎の移転先になる駅周辺の方はかなり全体的な構想でまとめられています。それに対して現本庁舎跡地の方は、跡地活用という言葉がでんと上がっています。この2つを比較すると程度の差があって違和感があります。そうではなくて、この庁舎の移転に係る「移転先」と「跡地」の地域活性化は、対等で持っていくべきではないかと思えます。

そうしますと、移転先の方はこれでいいと思えます。現本庁舎周辺の方は、一つは人口問題。それから歴史、景観等。これを軸にしてここのエリアをどうするか。既存施設で十分対応できるものとそうでないものとあるわけですから、それを貼りつけてみて、ここのエリアの地域活性化はこういう構想を立てました、ということになれば理解もしやすいし、だれも文句を言う者はいないと思うのです。そういう整理の仕方がないと非常にわかりにくいのと、それから、なぜ、今、ここの現本庁舎のところと、この2つの提案が出されたのかということ疑問を持ちますよね。これに匹敵して、ほかのところもこうこう検討します、しておりますというものと対等にずっと出てくれば、この2つの位置づけが明確になってくると思えますし、理解しやすいと思えます。

○清水会長 事務局の方から、後半に出たような意見に対して何か説明がありましたらお願いします。

○大島都市整備部長 まず、補足として、観光面についてはおっしゃるとおり、この地域を面的に考えなければなりませんので、現在市役所の中で城跡観光の推進の面的な計画を検討し、今後意見募集をさせていただきたいと考えています。

それから、この地域以外ではどういう計画で考えていくのかという御指摘ですが、二核二軸による中心市街地の活性化について、平成24年度で最終年となる5カ年計画があります。25年度以降も同じ二核二軸を基本にいたしまして、中心市街地の活性化を図っていく予定です。そのための検討委員会を平成24年度に立ち上げます。ですから、まちづくりを面的に考えるべきといった観点で庁舎跡地の検討が足りない部分について、この委員会の中で検討していきたいと考えております。

また、決して中心市街地のまちづくりだけを検討しているわけではないという例として、現在、地域生活拠点としての新市域の再生計画を策定する準備を進めています。平成22年度には用瀬地区の都市再生のための計画を策定し、現在も地元に通い続けてハード、ソフト両面での具体化を図っています。そうした形で中心市街地、地域生活拠点双方での全市的な多極型コンパクトシティのまちづくりを全力で進めていきたいと考えています。

最後に、太平線のプロジェクトに関する懸念をいただきましたが、太平線の交通処理については、警察に私自身も通い、厳密に協議し、例えば何台待ち駐車ができるのか、それが渋滞を引き起こさないかということなど、あくまで余裕を持って検討しております。また、決してハードができればよいと考えてはおりません。ソフト面につきましても空き店舗に関する対策を地元と共同で現在進めております。交通処理、ハード面、ソフト面、すべてにおいて地元の皆様の御了解、御協力を得ながら取り組んでいきたいと考えています。

○清水会長 それでは、まだ意見をいただいていない委員さんから。

○委員 中山間地活性化でも、どこの地域活性化でも、やはりその地域の人たちが立ち上がらないと活性化はできないですよね。その中心市街地の方たちは本当にどういう考えでいらっしゃるのか。また、青年部の若い方たちもかなり努力をされていると思いますが、その成果が実ってきているのか、そうでもないのかということが気にかかります。やっぱり何か変えようということになれば、ただ年配の人たちが昔を懐かしがっているだけではなくて、若い方たちの突拍子もないと思われるような発想も生かされるべきではないかなと思いますので、中心市街地の問題は、やはり当事者の方の奮起をお願いしたいと思います。

跡地利用ですが、一番鳥取市の中心部に欠けているものといえば緑の広場だと思えます。高齢者の方、若い方、子どもたちも来て芝生の上でのんびりできて、地元の方のライブがあればゆったり聞けるような緑の空間というものあってもいいのではないかと。

また、私も駅南の方に住んでおり、しょっちゅう子どもを迎えに駅南口に出ます。本当に送迎の乗用車のとめる場もないし、無理やりとめるとくる梨バスも大型バスも通らない状況です。車と関係のない方が見られれば、景観としては緑が多くて、大きな木もあってと思われるかもしれませんが、利用する者にとっては、大変不便に感じます。

○委員 現在の庁舎の跡は、やっぱり広々としたところだというのがイメージにわきやすいです。余りごみごみしたイメージはわかりません。

それから、駅南は私も利用させていただく機会が多いものですから、本当にそういう感じで、乗車下車される方が苦勞されておられるので、もうちょっとおおらかな場所ができたらいかなと。

○清水会長 私も中心市街地活性化に関わりがあるので、説明しておきます。

中心市街地活性化の計画について竹内市長が国に申請し、平成19年に国の認可を受けて始まりました。やはり商店街をシャッター通りにしないように、活況するような形をとっていきたくと。一つの拠点としてパレットとつとりを中心市街地活性化協議会（中活協）の仕事として整備しました。

それから、アーケードは古くなると暗く、危なくなるということで、整備をどうするかという検討もしました。

2年ほど前には、五臓圓ビルをもっと大切にみんなが守っていこうということでリニューアルし、智頭街道があれで息を吹き返したような感じがします。隣に宝林堂さんも出てくるし、右隣にもお店ができるということで、点と点が面になったらいいと思っております。最近、合銀の鳥取南支店の跡地も、パレットとつとりと同じような形で、農産物を初め、市民に安く新鮮なものを出していくような施設をこしらえているところです。

鳥取商工会議所の会館も中活協の一部として、国土交通省の方から補助金をいただいてリニューアルして活用しております。初めは6社しかテナントが入ってなかったのが、今は22店舗入っています。この智頭街道、若桜街道、鹿野街道に人が出入りするような形になるよう、じげの祭りなどをサポートしております。

駅前周辺の商店街でも結構苦勞して、便利になるように、人がもっと集まりやすくなるようにということをやっております。

また、鳥取大火があつてから今年で60年になり、大火後に耐火建築として若桜街道、智頭街道が連棟で建っているのをどうリニューアルするかという課題を抱えております。今、駅方面から若桜橋を渡った右側のブロックの方が話し合いをされて、1階を商店にして、2階を高齢者の住宅にして、3階を地権者の住宅にしてというモデル事業を進めているところです。

中活協は、商工会議所、市、専門家の方が集まって、じげの人をいかに意思統一するかということで、点と点をあわせて面になるような形でアクションを起こしているところです。

それでは、この辺で市長にまとめをしていただければと思います。

○竹内市長 大変貴重な意見をたくさんいただきました。

官民の役割分担は極めて重要で、公共投資に伴って民間投資が誘発されると考えています。例えば市庁舎が移転をすれば、ここの場所に日常的な買い物ができるスーパーの一つも必要だという根拠の一つとして、自分のところが進出してもいいという地元スーパーの声もないわけではありません。今はこの地域には店がなくなりましたので、遷喬校区の方からも強い要望があり、一部は既に若桜街道マルシェというお店を合銀の支店

の跡地を利用して整備中です。市自身が整備するだけでなく、民間の事業者が中心となってやる分も明確にしていくことが整備の促進につながっていくだろうと思っております。私の今の4年の任期のうちの2年がたつということで、マニフェストも検証して、新たな後半の2年に向けた新たな充実を図ろうとしているところで、雇用の問題等についても見直しが必要でもあるので、位置づけをしっかりと出していきたいと思っております。

駅をおりたら人通りも少なく寂しい、余りよいイメージでないというお話がありました。まさにここにかかわるのがシンボルゾーンとして位置づけている太平線通りの事業で、鳥取大丸の横、太平線通りの駅前部分を整備し、鳥取駅をおりた段階で「これはすごい」と思っていただけの、新たなにぎわいの空間、魅力ある空間をつくらうとしています。そういったことの説明が不十分である点もあろうかと思っておりますので、これから内容なり、ハード、ソフト両面の取り組みを紹介していきたいと思っております。実証実験したときにも、随分多くの人から「これはいいね」というお話をいただきました。そういう実証をある程度しておりますので、駅とつなぐことによって鳥取の駅前の新たな魅力あるゾーンとして構成できるのではないかと考えています。

湖山との違いについてのお話もありました。やはり市の中にはいくつかの核があり、それぞれ魅力や機能が違うと思っております。湖山は大学町であり、そういう文化があると思っておりますし、こちらはしゃんしゃん祭、歴史、伝統の薫り。例えば民芸美術館とか文化村通り、あのようなところは観光される方にとっては非常に奥深い魅力を感じるところだと思います。ですから、駅前はまだ少し磨きをかけて、いろんな付加価値をつければ魅力あるスポットになると思っております。駅前に砂像があるときは随分人気がありました。鳥取城の整備も今進めていますし、わらべ館も隣に新たに緑の空間ができて、魅力アップしてまいりましたし、今漫画の展示もしています。これらも新たな鳥取の文化の発信拠点として大きいと思っております。

大学関係、国際交流関係でも、鳥取の地域資源を活用しようと思えば、こちら側に来られるということはよくあるのではないかと考えています。文化芸術もあるし、歴史もあります。わらべ館も国際交流に熱心に取り組んでいます。

また、ほっとする緑の空間という御意見もいただきました。そういう部分も、公園的な機能ということで出ておりますし、十分御意見を反映させていきたいと思っております。

駅の南口がもう少し整理整頓が必要ではという意見がありました。駐車場、駐輪場、新たなにぎわいのゾーンができるという話がありますが、もう1度、駅の南側がどういう場所であるべきか考えると、駅の南側のロータリー、あるいは山白川から車が通り抜けできない今の交通形態など、見直しをしなければならないところが出てくると思っております。鳥取駅が高架されてからちょうど30年たち、今それを計画するべき時期だと考えております。今回の計画案にはありませんが、必ずしっかり考えて、駅の南側も北側も総合的に一新されたという印象を持てるようにという認識をさせていただいたところです。

市庁舎の移転というののもこれからいろんな段階を踏んで行われることですので、まだまだ議論の時間と余地はありますので、そのところは差し当たりこういう機能を

備えるべきだという議論がまとまった時点でさらにまた議論を重ねていきたいと思ひます。

○清水会長 ありがとうございます。委員の皆さんでもうちょっと言い足りなかったことがあれば、ここで受けたいと思ひます。

○委員 新庁舎建設の Q&A、新築移転についての PR 資料、基本計画のあらましとか、随分労作がたくさんございます。せっかくこれだけ充実した内容の資料をおつくりになつても、市民の意識の中に十分にインプットされてないのが現状と思ひます。これを市民の皆さんに本当にわかつていただいたかどうかということをお考え願ひたいと思ひます。

○委員 この計画で「にぎわい」といろいろ書いてありますが、思惑どおりにぎわいがあった場合、では車は何台置けるのですかと聞きたいです。公共駐車場はイオンの3分の1でも5分の1でもあるのか、車は何千台大丈夫なのか。千代川の河川敷に置いてシャトルバスで来なければいけないみたいなことを繰り返してはだめだと思ひます。

○委員 こだわって申しわけないですが、「跡地活用」というのをメインタイトルに持っていかれるのは、私はちょっと違和感があります。サブタイトルならいいのですが。せっかく地域活性化検討委員会がつくっておりますし、ちょっと検討してみてください。

○亀屋庁舎整備局長 庁舎問題につきましては広報もしておりますが、目に触れる機会がなければそれでおしまいになってしまうということになります。現在も出前講座でより多くの方にお知らせしています。現状を知っていただかないと、本来の住民投票の意味がありませんので、今後広く住民の方に知っていただく対策を検討していかなければならないと思っております。

○竹内市長 エンジン01の事業に関しては、プログラムなど見ていただく機会も多くあったかと思ひます。3月23、24、25の3日間の取り組みです。

○清水会長 このとき動く人数がけた違いに多いのですが、車とかシャトルバスとか、何千人という方の移動がいい具合にいくのかなという心配があちこちから意見として出てきています。

○竹内市長 全体のキャパシティーは、3日間で2万2,500人ということになっていて、非常に大きな人数の方が参加されます。移動手段はシャトルバスを予定しております。鳥取環境大学は本当に大きなにぎわいになってくると思ひます。

今年の私の大きなテーマは「交流人口をふやしてまちのにぎわいと活力を生み出そう」ということです。環境大学は今日、メインの入試の合格者の発表をされたようですが、定員を上回る学生が来て、本当にまちのにぎわいに寄与すると思ひます。今年は漫画博覧会、マンガフェスティバルの関係もございますので、鳥取は来訪者で非常ににぎわうことになると思ひます。

駐車場はできるだけ力を入れて増やそうと考えております。袋川から久松山側では既に片原の駐車場という新たな拠点もつくりましたし、県庁の方にも駐車場が増えました。駅周辺は今でもかなり駐車場が増えてきています。店のすぐそばに駐車場がつくれる場合、つくれない場合、いろいろありますので、ちょうど本通パーキングがあるように、

拠点を見つけてつくっていくことになろうと思います。

跡地利用という表現について御意見をいただきましたが、報告書の表題として「跡地利用」を抜いてしまった方がいいのかなのか、委員会の方で検討していただこうと思います。いずれにしても周辺地域の活性化・跡地利用の基本方針ですので、表題に出すかどうかは別にして、内容的には含めていかなければならないと思っています。

○委員 庁舎整備についての住民との説明会が何度か重ねてあるものだと思ったら、意外と話し合う機会がないなと思いました。資料が捨てられないために、読んでもらうために、皆さんに手渡しても捨てられないようにする工夫が何かあれば。

○亀屋庁舎整備局長 市民の皆様の投票で庁舎問題という鳥取市の将来を担う大きな事業を判断いただくわけですから、市の案と対案とを含めて、市民の皆様により多く内容を把握していただいて、投票していただくということに重点を置いていきたいと思っています。重要な点は機会を設けて説明していきたいと思っています。

○委員 ここで新庁舎ができなければ鳥取市民の取り返しのつかない大きな損失になるとある方に言われましたが、子育て世代の親と接すると、本当それだけのことをみんなが思っているのかなと思うぐらい無関心です。一般の市民にとっては遠い世界のことなんです。それぞれの関心のある世代に向けたアピール、あなたの世代ではこう変わるのですよ、こういう未来が描けるのですよという、もっと細やかな説明が必要です。高齢者とか子育て世代が縦割りでなくいろいろな形で集える場所、夢の場所ができるのだと。それにはやっぱり今の現庁舎ではなく一つになることが必要であること、さざんか会館の保健センターが移ることによっての駅南庁舎の1階がどんなにすばらしい施設になるかということをもっと細やかに、関心のある世代ごとにまとめた資料みたいなものをつくっていかないと。何億とか、中心市街地とか、本当に見ない人はそんなの見ないです。賛成するにしろ反対するにしろ、住民投票への投票行動にもつながらないと思います。ぜひ関心を持っていただくために、きちんとした資料をよろしくお願いします。

○清水会長 意見としてとらえていただいて、今後に活用していただきたいと思います。

○竹内市長 よくわかりました。

○清水会長 予定の時間が過ぎましたので、ここで終わらせていただきます。

○司会 以上をもちまして第2回鳥取市政懇話会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。